

2012年3月発行

第15号

松阪市男女共同参画情報紙

ひまわり

- ◆頑張っています!
- ◆見つけた!素敵な人!
- ◆新「松阪市男女共同参画プラン」が出来ました
- ◆「日本女性会議2011松江」に参加して

「ひまわり」は、発行して15年を迎えました。

過去に「頑張っています!」コーナーに登場していただいた方々の「今」取材させていただきました。

ひまわり第5号登場 (2002年2月発行)

松阪市民病院 看護師 中村 友紀さん



(2002年 当時)

身近に医療関係者がいたり、これからの社会での必要性を感じて看護師の職を選びました。

当院の男性看護師は3名で市民の認知度は低く、患者さんに何をしているのかと聞かれることがあります。

患者さんが回復され、退院される姿をみてうれしくなります。

現在

10年前3名であった男性看護師は現在13名となりました。看護師長という立場になりスタッフの育成とそれに伴う自部署の高評価を受けた時にやりがいを感じます。妻も看護師であるため、看護という仕事に対する理解があり協力してくれています。大変な仕事ではありますが、家族の理解が得られ、妻の支えのおかげで仕事に専念することが出来ています。また、娘も将来は看護師になりたいと言っており私自身のワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)は保たれていると思っています。

学んでも学んでも、これで終わりということがないのが看護の世界です。

自分のめざす看護師像に向かって勉強し、専門職としてステップアップし続けることが目標です。



頑張っています!

ひまわり第6号登場 (2003年2月発行)

西保育園 保育士 星山 和弘さん



(2003年 若草保育所当時)

社会人を6年経験したあと、自分のやりがいの持てるものを探し始め、子どもたちの成長や変化に携われる保育士に魅力を感じました。

保育所は女性の多い職場で、男性トイレがありません。他の先生とお互いに遠慮し合って使っています。

保護者と信頼関係を築き、子どもたちに慕われる先生になりたいです。

現在

今、勤務している西保育園では、男性専用のトイレやロッカールームを作っていただけていますが、10年前と変わらず男性専用トイレのない保育園もあります。

保育士という仕事は、どうしても家でする仕事が少ないからありますが、家庭での時間や余暇を十分取ることでワーク・ライフ・バランスを心がけています。

男性保育士へのアドバイスとしては、男性だからということではなく、一人の保育士として、乳幼児期という貴重な時間を一緒に過ごす中で、日々子どもたちと精一杯向き合っていくことです。

これからも子どもたちと一緒にさまざまな経験をし、自分も成長したいと思います。

目標は、保育士として責任を持ち、まわりの方々や保護者の方に信頼してもらえるようになりたいです。





ひまわり第7号登場 (2004年2月発行)

松阪地区広域消防組合 消防士
(旧姓 竹岡) 須賀 菜也さん



(2004年 当時)

高校生の時、ソフトボールの試合中ケガをして救急車で病院に運ばれました。

その時の救急隊員の対応に大変感動し、助けを求めている人のためになりたいと思いました。

実技・法令・救急などの訓練を県消防学校で研修し、南消防署で男性と一緒に頑張っています。

性別に関係なく、早く立派な消防士になれるように頑張ります。

現在

救急隊として勤務していましたが、妊娠がわかってからは身体のことを考慮していただき、消防救急課で統計事務等をしています。

女性消防士として、救急現場や火災現場で、傷病者の方からお礼の言葉をいただくと励みになります。

現在、育児休業中ですが、職場復帰してからのことを夫婦だけでなく両親とも話し合っています。

復帰後の子育てについては、子どもとの時間を大切に、家族みんなで協力していきたいと思います。

これからの目標は、男性職員の協力の中で、女性としての特性を生かして消防の業務に取り組んでいきたいと思います。



頑張っ ています!

ひまわり第10号登場 (2007年2月発行)

社団法人松阪地区医師会
ホームヘルパーステーション 介護福祉士
稲垣 拓馬さん



(2007年 当時)

母親が看護師をしていたこともあり、自然に介護福祉士をめざしていました。

利用者の方の中には若い男性が来ると不安に感じる方もあります。

プレッシャーはありますが、男性であることを意識せず、自分の出来ることを頑張ります。

「笑顔が一番」と思い仕事をしています。

利用者の方のお役にたてることを第一に考えて頑張ります。

現在

男性の介護福祉士は増えていると思います。在宅介護としての男性の介護士がもっと増えていけばと感じています。

介護福祉士の仕事をしていて、利用していただく方々の笑顔を見ることが出来た時やご自宅にて最期を迎える方々へのお手伝いが出来た時にやりがいを感じます。

仕事と生活の調和を守るため、仕事を持ち帰らないなど自分で線を引いて、メリハリをつけています。

自宅で生活される方々のお手伝いが出来るように、自分自身も含め、一緒に働くヘルパーさんたちの知識や能力の向上と一緒に日々努力し、笑顔を絶やさないことをモットーに、少しでも多くの方に安心してご利用していただけるような事業所を作ることが目標です。

松阪市の福祉が充実していくよう、少しでもお手伝いができたらと感じています。

訪問介護事業を含めて、介護分野のネットワークが構築されることを願っています。



見つけた! 素敵な人!

井坂 とく さん

1930年から38年間小学校に勤め、その後県内私立幼稚園で園長として20年近く勤務。

100歳になりまして、元気の秘訣は子どもと遊ぶことです。昭和5年に小学校の教師になり、1年生の担任を38年間勤めた後、私立幼稚園の園長を勤めました。人間の一番大事な原点はどこかと考えた時、0歳から5歳まで保育する保育所が本物の幼児教育だと思い、それからはボランティアで活動し、津と伊勢の保育園に電車に乗って出かけています。

幼児の段階は感覚の黄金時代で、子どもたちの独創性、好奇心、集中力に驚かされます。

子どもの絵は、喜怒哀楽や希望など、生活感情があふれたものが線になって出てきます。幼児の絵は見るものではなく、聞くものだと思います。

働きながらの子育てでしたが、おばあちゃんが子育てから家庭のことまで協力してくれたので、長年一生懸命勤められました。

夢は、昔からですが子どもと遊ぶことです。保育所は、人間の精神的な原点である心を育てるところだと思います。



平尾 良一 さん

約30年前に男性の保育士として名古屋市で20年間勤務後、三重県内の保育園に。2007年4月から、松阪市の公立保育園で勤務。

大学2年生の時に保育資格が取れるコースを選択し、乳幼児期の遊びの研究を専門的に学んでいく中で、実際に保育現場を見て、保育園に勤めようと思いました。

最初の勤務先は病院内の院内保育所で、お父さんたちも運営に携わっていたので、自分が男性だからという意識はしていませんでした。男性、女性に関わらず、いろんな人がいて、その人の個性が発揮できればいいと思います。

1977年に男性に資格が認められた時「保育資格」だったので、男性も女性も同じ資格の名称にする活動が続けて、今は、男性、女性とも「保育士」になりました。

男性で保育士をめざしている方へのアドバイスとしては、しっかり勉強することです。学生の頃に勉強しておくことが一番の財産で、自分の意見を持ち、意見をぶつけた学生時代の経験が保育現場の中で一番役に立つのではないかと思います。



女性消防団「さくら分団」分団長 佐藤 真弓 さん

2000年8月、松阪市初の女性団員による「桜分団」団員15名で発足。現在、団員17名で活動中。

当時、消防団長をしていた伯父に、女性消防団ができるのでどうかと勧められ、最初は躊躇しましたが、1年後の第2期生として入団しました。

女性消防団の活動は、心肺蘇生法や止血法などを指導する普通救命講習会で指導者として一般の方等に指導を行ったり、保育園・幼稚園や祭りなどのイベントで、防火の啓発など地域に密着した活動をしています。また、新しい取組みとして、人形劇を通じて火災や応急手当等の啓発活動もしています。消防団の活動は、昼間・夜間と様々ですが、全員が仕事を持っているので、家族や職場の協力をいただき、団員同士で協力しあいながら、消防団活動を頑張っています。

今後は、震災の影響でまわりの意識も変わってきているので、勉強して知識を深めて、女性消防団の活動を通して防火や防災について啓発をしていきたいと思っています。



(救急法の指導の様子)

新「松阪市男女共同参画プラン」が出来ました

松阪市では、社会のあらゆる分野に等しく参画できる社会の実現をめざして、今までのプランの取組みを踏まえて、平成23年度から平成27年度までの新しい「松阪市男女共同参画プラン」を策定しました。

プランの重点的な取組み

- ① 男女共同参画意識の高揚
- ② 政策・方針決定過程における男女共同参画の推進
- ③ 男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革
- ④ 雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保
- ⑤ 農林水産業・商工業等の自営業における男女共同参画の推進
- ⑥ 男女共同参画を阻害する暴力等への取組み
- ⑦ 生涯を通じた心身の健康と生活支援

松阪市のめざす男女共同参画社会

女性と男性がともに個性と能力を発揮し、よろこびも責任も分かち合うことのできる社会

協働

市民の役割

- ① 社会のあらゆる分野に自ら積極的に参画し、男女共同参画の推進に努める。
- ② 市が実施する推進施策に協力するように努める。

事業者の役割

- ① 職場における活動に男女が対等に参画する機会の確保に努めるとともに、仕事と家庭その他の活動を両立して行うことができる職場環境づくりの整備に努める。
- ② 市が実施する推進施策に協力するように努める。

市の役割

- ① 男女共同参画に関する施策(積極的改善措置を含む。)を総合的かつ計画的に実施する。
- ② 推進体制を整備するとともに必要な予算上の措置を講ずるように努める。
- ③ 施策の推進にあたり、市民及び事業者と相互に連携と協力を図るように努める。

「日本女性会議2011松江」に参加して

平成23年10月14日(金)・15日(土)、島根県松江市で「日本女性会議2011松江」が開催されました。この「日本女性会議」は、男女共同参画社会の実現をめざし全国の参加者とともに考え話し合う会議で、毎年各都市連携のもと開催されています。今回は、市民公募により2名が参加されました。



松江市で行われた「日本女性会議2011松江」に参加させていただき、私が参加したワーク・ライフ・バランスの分科会で印象に残った言葉は「普通の働き方で普通の生活ができるために、最低賃金でも食べられる賃金を」「企業に都合の良い働き方ではなくても認められる社会に」「女性が働きやすい社会は男性にとっても働きやすい社会である」などでした。

2日目の登山家 田部井淳子さんの記念講演は楽しい話で元気をもらいました。

シンポジウムでは、「生き生きと生きること」「一人ひとりが地域を変えることがやがて国を変えることになる、これを松江の名産にかけて『ぼたん革命』と名付けましょう」と松江からの提言がされました。

大会に参加して、講演を聴いたり、多くの方に会ってお話させてもらって、いろいろな視点や考え方を知ることができ、刺激を受けた2日間でした。

(中村文恵)

20万都市松江から「災害時に於ける地域での助け合い」に学ぶ。

立ち上げから登録、事業の推進に至る迄を自治会、自主防災組織等を中心に行う市民に依る手作りの取り組みであり、行政の介入が極めて少ない点を注視したい。

活動主体であるワーキング会議の設営の際に、小委員会として「高齢者部会」「障がい者部会」を置いている。又、「まかせて会員」が「おねがい会員」に安否確認や避難誘導、日常的な声かけや見守り活動を行う。向こう三軒両隣での支え合いの復活を提唱するものであり、地域の人達には福祉の「場」を提供している。

高齢者の生活課題への個別支援等を駆使しながら、市民の主体的な活動を引き出す事が地域力の醸成に繋がると信じて来た。

松阪の地に於いても来るべき想定以上の災害に対し、備えるという一人ひとりのイメージの有り様を現代ほど問われている時はないでしょう。

(前田多香子)